



A重油 専焼のおすすめ

C重油より値段の高い燃料を焚くなんて無駄？本当にそうでしょうか？

A重油燃焼では部品の消耗も少なく、伝熱部の清掃などのメンテナンス費用も安くなります。

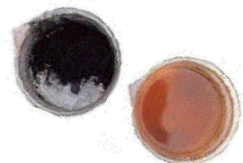
また現在のボイラ缶体及び燃焼制御はC重油燃焼を主体に考慮されており、しかも1.0t/hr近辺もしくはそれ以下の蒸発量のものについては実際のオペレーティングパターンの如何にかかわらずほとんどON-OFF制御です。

ON-OFF制御では0/100%の断続運転でその時点の蒸気需要を満たす制御です。平均でつじつまが合えばいいじゃないか？いいえ ON/OFFの度に空気で炉内をパージして冷やし、点火では燃焼効率が悪く煤を出してしまいます。エネルギーが最大20%も捨てられてしまっているのです。

このように、このサイズのボイラではランニングコストの更なる低減が可能であるケースがあります。

では実際のオペレーティングパターンに見合う仕様にした場合高くつくのでしょうか？

またどの程度ランニングコストをセーブできるのでしょうか？



実は、A重油燃焼に最適化した場合、初期のコストは安くでき、小型バーナでも比例制御を選択可能です。

そしてなにより環境に優しいクリーンな環境対策技術なのです。

初期投資は、ボイラだけでも少なくとも50万円ほど安くでき、ランニングコストは燃料代でほぼイーブンです。(缶体と制御の改善により運用効率が上がり、燃料の値差を相殺できます)

初期投資が安く、清掃費用、燃料切り替えなどのクルーの負担が減り、環境対策に^{かな}適い、またガスオイル(MGO)使用時にも安全対策を軽減可能、そんな対策が実は身近に実現できるのです。

『C重油からA重油専焼に』一度検討されてみてはいかがでしょうか？詳細検討のご用命をお承りしております。



現在の給水温度低すぎませんか？

ボイラの燃料代を低減する手段の内、もっとも投資が少なく確実に効果があがる方法があります。

それは、給水温度を確認することから始められます。

もし現在運行されている船のボイラ給水温度が60℃を下回るようであれば無駄が存在すると考えられます。

ではどのくらいの無駄でしょうか？

仮に35℃だったとすると、4%もの燃料を無駄にしていると予想できます。

大気圧開放型の給水タンクでは蒸発量の90%程度、最大限の顕熱を保ち回収できることが理想で、この場合実際種々の損失を無視すれば90℃前後に保つことが理想的です。(35℃しかない場合とくらべ10%もの燃料削減可能。)

また給水は高温に保てば保つほど、腐食を促進する溶存酸素を減らせメンテナンス費用も軽減できる効果があります。しかし、コンデンサへの冷却海水の流量を調整し給水温度を最高に保つのは骨の折れる仕事で、実際は管理されていないのが実情です。

オルボルグ・インダストリーズは、給水タンクの温度を一定に保つ温調システムを安価に提供可能です。

レトロフィットも対応しますので一度ご相談ください。

電気ボイラ

自動車運搬船等、発電機容量が大きく余裕があり、積荷にボイラから出る煤が、万が一にも掛かる可能性があってはいけないなどの厳しい制限がある場合、電気ボイラも考慮すべき選択肢の一つです。

定格に対する最低出力(ターンダウン比)は重油燃焼装置(バーナ)より細かく調整でき、運用によっては大きな導入効果も期待できます。

オルボルグ・インダストリーズでは270kW(蒸発量約0.4ton/hr)を基本ユニットとして提供が可能です。

レトロフィットも承ります。



電気ボイラVESTA™ EH-S

発行元 オルボルグ・インダストリーズ株式会社

製品、サービスに関するお問い合わせは下記窓口にて受けたまわっております。

神戸本社

〒651-0096 神戸市中央区雲井通4丁目2番2号 マークラー神戸ビル
Phone: 078 271 5720 Fax: 078 271 5741 : Email sal@aalborg-industries.co.jp

東京支店

〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目6番7号 第9興和ビル別館
Phone: 03 3584 8351 Fax: 03 3584 8378 : Email tokyo@aalborg-industries.co.jp

Home page address: <http://www.aalborg-industries.com>

Your Preferred Partner